

カウンセリング各論

専門教育科目/2単位/S授業

■使用テキスト	* 担当教員によるレジュメ等
◆参考テキスト	

講義概要・一般目標

まずはカウンセリングの基礎的な知識を備える。現在カウンセリングの理論や技法には様々なものがあるが、それらがどのような形で行われているか、その特徴について事例を通して学んでいく。

次にそれぞれの理論に即したワークを行い、体験的にカウンセリングを理解する。人間の抱える心理的困難を鋭敏に察知・対応するためにも、複数の立場から多面的に理解できるようになることが求められる。

ワークでは、セルフケアにも使えるものや、アセスメントに関するものを用いる。カウンセリングをする立場だけでなく、カウンセリングを受ける立場からも学んでいく。また、ワークで感じたこと、自分の見立てなどを共有し多様な視点を身につける。

現代社会における心の悩みに寄り添えるような対人援助職としての基本的な姿勢についてしっかりと学んでほしい。また講義で示すようにカウンセリングの理論や技法には、特定の分野や問題、特定の疾患に限定されず、様々な問題に応用できるものが多い。講義で学び、体験したことを、将来の職務で活用してほしい。

到達目標

- ・ カウンセリングについての基礎的な知識を説明できる
- ・ カウンセリングの種々の理論や技法について説明できる
- ・ カウンセリングをする立場とカウンセリングを受ける立場の違いを説明できる
- ・ 自分の見立てや体験を他者と共有し、多様な捉え方があることを理解できる
- ・ 自分の意見をその根拠とともに、論理的な文章として構成し、発表できる

評価方法

- ・ 出席を重視する。理由のない遅刻・欠席は評価に影響を与える
- ・ 積極的な発言や意見を期待する
- ・ 出席状況や授業中の態度、スクーリング最終日に実施する単位認定試験の結果を総合的に判断して評価する
- ・ 授業態度の良くないもの、特に授業の妨害行為や他の受講者への迷惑行為は、退室等の厳しい措置を講ずる
- ・ 障害(難病、慢性疾患を含む)があり、通常の方法による授業を受けることが困難な場合には、教育目的の本質的な変更など過重な負担が伴わない限り、合理的配慮を受けることが出来る。合理的な配慮は担当教員との建設的な対話をもって、実際の方法が決定される